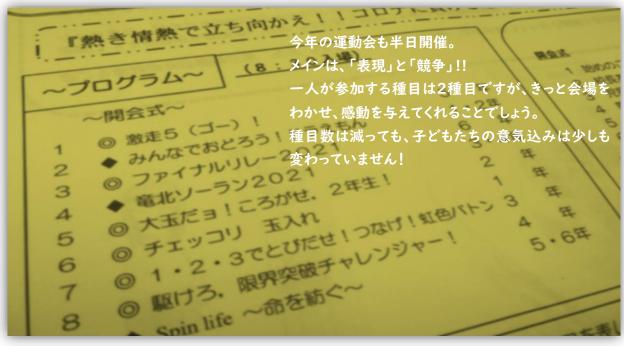


No.7 令和3年9月22日 文責/古屋





思い出に残る運動会に!

暦の上では、「秋分(9月23日)」を迎えます。朝夕めっきりと涼しくなり、日中の暑さの中でさえ、心地よい風を感じる今日頃となりました。

運動会を間近に控え、子どもたちは、「輝き☆」を放ちながら練習に励んでいます。 気温と WBGT (暑さ指数)を気にしながら 適宜水分補給をし、「密」を避け、短時間で 効率のよい練習に汗を流しています。

今年の運動会も、昨年に引き続き、コロナ禍での開催となります。半日開催の上に、「密」になりにくい種目の実施となるため、保護者の皆さんが子どもの頃に経験した運動会とは大きく違う形(「学校の新しい運動会様式」)となっています。

そんな新しい様式の中、「半日か・・」「種目が・・」とネガティブになってしまっては、せっかくの運動会が台無しです。前向きな気持ちを高めるためにも、「コロナ禍で何ができるのか。どうすればいいのか。」と、今できる最大限の可能性を考えることが大切です。「今年の運動会は貴重だ!これからに必ず活かせる!」とポジティブに考え、児童・保護者・教職員が一体となり、挑戦していきたいものです。

全校で取り組む運動会は、一人ひとりの力を結集し、皆で創り上げていく醍醐味があります。とかく当日の成果に目が向きがちですが、それまでの取組過程にこそ教育的な価値があると考えています。「身体を

動かす (使う) 体験」「集団活動から得られるルール・マナー・協調性」「自己の役割を果たす責任感・自己有用感」「成し遂げるさがられない、自己を表していていてもます。同時に、「行動力」「発想力」といった、一人ひとす。の技想のできます。といった、一人ひとす。演技をできまみつけることができます。自分・・・できまする子、質の高い表現をする子、ならです。を発見ができるのも運動会ならです。

「新しい運動会様式」だけに、**自分の記憶と家族の記憶**に残る、思い出深い運動会になることを切に願っています。

~ 師弟同行 ~

一(していとうきょう)―

運動会を成功させるために、子どもたち 同様、先生方も精一杯取り組んでいます。 その一つが、表現への取組です。短期間・ 短時間による効率の良い取組のため、自ら <mark>率先</mark>して動きを見せます。コツをつかんだ 動きを、子どもたちに分かりやすく示し、

<u>さすが!</u>と思わせる動きが 随所に見られます。

右は、昔からよく言われる 格言です。まさに先生方は、 この言葉を体現しています。 子どもたちとともに歩み、師 弟同行を実践しています。 きめてやらねば言って聞かせて

~特別目課のひとごま~































